

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.10 森林入門！ No.17 森林（ヤマ）の仕事体験 No.18 木工クラフト体験
---------	--

学校名	高知市立初月小学校
学年・生徒数	5年生 129人
実施場所	高知県立森林研修センター 情報交流館
目標	木材や木の葉、木の実などに触れ合ったり、山や森林の働きを調べたりすることによって、山や森林の大切さを感じたり、自然に親しむ心を育てる。
実施教科	社会
関連教科	
準備物	児童… 上履き、軍手、木工作品を持って帰る袋、弁当、水筒 講師… 講話用のPC、スクリーン、閲覧資料、バインダー、メモ用紙、鉛筆など。 木工用の材（キット）、トンカチ、釘、ボンドなど。 間伐体験とノコギリ体験用のヘルメット、ノコギリなど。

実施項目	講話、木工クラフト、間伐体験、ノコギリ体験
対象プログラム	No.10 森林入門！ No.17 森林（ヤマ）の仕事体験 No.18 木工クラフト体験
所要時間	講話 30分程度、木工クラフト 60分程度 （昼食・休憩 40分程度） 間伐体験 80分程度、ノコギリ体験 40分程度
実施内容	9:15 講師挨拶、生徒挨拶 9:20 児童はトイレ休憩の後、1と2組、3と4組に分かれて集合した。午前中は1・2組が屋内（講話、木工）、3・4組が屋外（間伐、ノコギリ体験）、午後は1・2組が屋外、3・4組が室内で学習した。  （以下の記載は、3・4組の実施内容です。） 9:30 3・4組をさらに4班に分け、各班に講師1名が付き添った。 児童は、荷物を所定の場所に置き、ヘルメットと軍手を装着した。 講師は注意事項等を伝え、間伐体験場所へ徒歩で向かった。道中、ヤマモモ、スギ、ヒノキなどの現物を見ながら針葉樹、広葉樹、落葉樹、常緑樹の違いなどを説明した。 徒歩約10分で現場に到着した。講師から、間伐の仕方や注意点について説明があった。（周囲を観察して倒す位置を見定める→受け口を切る→追い口を切る→倒す）出席番号順に一人ずつ間伐体験を行った。 間伐した木を長さ1.5mくらいに伐って持ち帰った。（ノコギリ体験に使用）

- 10:50 情報交流館裏の芝生広場に戻り、ノコギリ体験を行った。  
まず、講師が見本を見せた。次に、児童が順番にノコギリ体験を行った。木が倒れないよう、児童が木に座ってオモシになるようにと指示があった。児童1名につき2〜3回丸太を切る体験ができた。  
講師から、「視線は上から真下をみてノコギリが真っすぐになっているかを確認する、引くときに切れる、推す時は力を入れない」などのアドバイスがあった。1回目はノコギリを上手く扱えない子も多かったが、2回目には上達していた。
- 11:30 昼食・休憩  
情報交流館裏の芝生広場に各自がレジャーシートを敷いて各自が持参した弁当やお菓子を食べた。
- 12:10 芝生広場に全員集合。3・4組は室内（シアター室）に移動した。
- 12:20 講師挨拶。午後のスケジュールの説明。バインダー、メモ用紙、鉛筆が児童に配られた。  
講話は、スクリーンに資料画像（高知県森林環境副読本より抜粋）を映し、森林クイズ（高知県の木は？花は？など）、高知県の森林率、森を放置するとどうなる？等の説明をした。  
講師から1枚の絵（山、川、海、里の暮らしなどが描かれている）が児童に渡され、4〜5人のチームに分かれて、10分程度、その絵を見て森の役割や自分たちの暮らしとの関わりについて話し合う時間が設けられた。  
その後、DVD（森林の役割）を約15分間鑑賞した。（目次 ①木材を生産する、②災害を防ぐ、③水をたくわえる、④地球温暖化を防ぐ、⑤たくさんの生物を育てる）
- 13:00 木工クラフト（小箱づくり）開始。まず、講師が全員に手順の見本を見せた。その後、児童は4班に分かれ、各班に1名の講師がついて指導した。釘を打つ場所を間違ってしまった児童もいたが、無事に完成した。
- 14:00 全員が玄関前に集合し、生徒代表が挨拶した。
- 14:10 バス出発。講師らは全員でバスを見送った。

実施風景





補足  
その他、プログラムの  
特徴

・1、2 学期に、森林のはたらきや高知県の森林などについて教科書等で事前学習を行っていた。

・プログラムは、森林の現状や役割などの学習、間伐体験と森林資源の活用（木エクラフト）であり、導入から体験までとても充実した内容だった。

・大人数だったが、全体を 2 グループに分けて午前と午後でプログラムを交代する、更に、全体を 8 班に分けて（1 班 15 名程度）各班に講師を割り当てるなどして対応可能なプログラムが構築できていた。

・講師（情報交流館ネットワーク）の方で、雨天時のプログラムも作成されていた。